

定和分变换によるマルチセル断面平板橋の応力解析

室蘭工業大学 正員 能町純雄 同。松岡健一

最近、高速道路等に、板幅に中空を有する平板が橋桁として用いられているが、これは一種のマルチセル構造と考えられる。この種の構造のマルチセル断面としての理論的な検討は少ないようである。本研究は、これを、折板理論により、フーリエ定和分变换を用いて、理論的に解析したものである。

1. 变位せん断方程式等

Fig. 1 に示すマルチセル断面を考える。この一折板要素に作用するせん断力と変位との関係については、著者の一人が既に多くの論文で発表しているのでここにはその結果のみを記す。

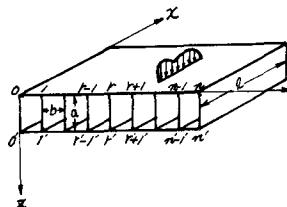


Fig. 1.

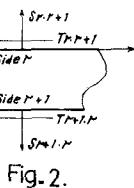


Fig. 2.

$$\begin{aligned} T_{r,r+1} &= \frac{N}{b} (2\ddot{u}_r + \ddot{u}_{r+1}) + \frac{vN}{2t} (\dot{v}_{r+1} - \dot{v}_r) \\ &\quad + \frac{1}{2} (s_{r,r+1} - s_{r+1,r}) \end{aligned} \quad (1)$$

$$\begin{aligned} T_{r+1,r} &= \frac{N}{b} (2\ddot{u}_{r+1} + \ddot{u}_r) + \frac{vN}{2t} (\dot{v}_{r+1} - \dot{v}_r) \\ &\quad + \frac{1}{2} (s_{r+1,r} - s_{r,r+1}) \end{aligned} \quad (2)$$

ここで、 \ddot{u} 、 \dot{v} は x 、 y 方向の変位であり、 T 、 N はそれぞれせん断力および法線力である。また、 $N = Et^3/(1-\nu^2)$ であり、 $\ddot{u} = \partial u / \partial x$ 、 t は板厚である。

さしに、節点 r における変位と法線力の関係は

$$\frac{2N}{b^2} (\dot{v}_r - \dot{v}_r) = -\frac{vN}{2t} (\dot{u}_{r+1} - \dot{u}_r) + s_{r,r+1} + s_{r+1,r} \quad (3)$$

$$\frac{Gbt}{2} (\ddot{u}_{r+1} + \ddot{u}_r) = -Gt (\dot{u}_{r+1} - \dot{u}_r) + s_{r,r+1} - s_{r+1,r} \quad (4)$$

$$\sum G_{rt} (\ddot{w}_r + \ddot{w}_{r+1}) = G_{rt} (\dot{u}_r - \dot{u}_{r+1}) + s_{r,r+1} - s_{r+1,r} \quad (5)$$

また、剛接モーメントは

$$M_{r,r+1} = 2K \{ 2\theta_r + \theta_{r+1} - \frac{3}{2} (\dot{w}_{r+1} - \dot{w}_r) \} \quad (6)$$

$$M_{r+1,r} = 2K \{ 2\theta_{r+1} + \theta_r - \frac{3}{2} (\dot{w}_{r+1} - \dot{w}_r) \} \quad (7)$$

$$M_{rr'} = 2K_0 \{ 2\theta_r + \theta_{r'} - \frac{3}{2} (\dot{v}_r - \dot{v}_{r'}) \} \quad (8)$$

$$\delta X_{r,r+1} = -6K \{ \theta_r + \theta_{r+1} - \frac{9}{2} (\dot{w}_{r+1} - \dot{w}_r) \} \quad (9)$$

$$\alpha X_{r,r'} = -6K_0 \{ \theta_r + \theta_{r'} - \frac{9}{2} (\dot{v}_r - \dot{v}_{r'}) \} \quad (10)$$

$$X_{r+1,r} = X_{r,r+1}, \quad X_{r,r'} = X_{r',r} \quad (11)$$

ただし、 w は x 方向変位、 X は節モーメントにより生ずるせん断力、 t 、 t_0 は上床板および隔壁の厚さ、 a 、 b は上下床板の同様および隔壁間の間隔であり、 $K = Et^3/12(1-\nu^2)$ 、 $K_0 = Et_0^3/2a \times (1-\nu^2)$ である。

2. 節点における力のつり合あより境界条件

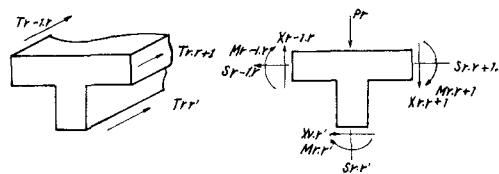


Fig. 3. Forces around Joint r.

節点における力の状態はFig. 3 のようになるので、力のつり合式は。

$$s_{r,r+1} - s_{r,r'} - X_{r,r'} = 0 \quad (12)$$

$$s_{r,r'} + P_r + X_{r,r+1} - X_{r,r-1} = 0 \quad (13)$$

$$T_{r,r+1} + T_{r,r-1} + T_{r,r'} = 0 \quad (14)$$

$$M_{r,r+1} + M_{r,r-1} + M_{r,r'} = 0 \quad (15)$$

境界においては ($r=0, n$)

$$s_{0,0} + P_0 + X_{0,1} = 0 \quad (16)$$

$$T_{0,0} + T_{0,1} = 0 \quad (17)$$

$$M_{0,0} + M_{0,1} + M_0 = 0 \quad (18)$$

M_0 は外カモーメントである。 $(12) \sim (18)$ 式より
 $(1) \sim (11)$ 式の関係を代入すれば、節点における
境界における、変位と断面力の関係式が求められる。
下床板の節点 $'$ についても同様である。

3. 上下床板等厚の場合

この場合、

$$U_r + U_{r'} = 0, \quad V_r + V_{r'} = 0, \quad \theta_r - \theta_{r'} = 0,$$

であり、

$$\Delta_r = (\Delta_{r,r+1} + \Delta_{r,r-1}) / 2$$

$$\text{とすれば}, \quad \Delta_r + \Delta_{r'} = 0,$$

また、(5)式において $(\Delta_{r,r+1} - \Delta_{r,r-1})$ の項は他の項に比べて無視すべき程度小さいと考えられるので、

$$W_r = 2U_r/a,$$

となる。 $(12) \sim (15)$ 式に $(1) \sim (11)$ 式の関係を代入して得られた式は、上の関係を代入し、 x 方向にフーリエ変換、 t 方向に定和分変換を行ない、 x 方向では単純交換であり、支点上は剛性接続で用いてあるものとすれば、 W, V, θ, Δ のフーリエ変換の値は次のようになる。

$$W_{0,m} = \left[\frac{NA}{12} (6 - D_i) + \frac{Nab}{12} \right] \left(\frac{m\pi}{l} \right)^2 + \frac{Gat}{2b} D_i \left(\frac{m\pi}{l} \right)^2 + \frac{24K}{ab^2} P_i + \left(\frac{N}{a} + Gt \right) \left(\frac{m\pi}{l} \right)^2 \sin \frac{m\pi}{l} D_{0,m}$$

$$- \frac{24K}{at} \sin \frac{m\pi}{l} \Theta_{0,m} = \frac{1}{a} H_{0,m} + \left\{ \frac{NA}{12} \left(\frac{m\pi}{l} \right)^2 + \frac{Gat}{2b} D_i \left(\frac{m\pi}{l} \right)^2 - \frac{24K}{ab^2} P_i - \frac{24K}{at} \sin \frac{m\pi}{l} (\Delta_{0,m} - W_{0,m}) \right\} \quad (19)$$

$$Gat \left(\frac{m\pi}{l} \right)^2 D_i W_{0,m} + \left\{ 2Gb t \left(\frac{m\pi}{l} \right)^2 + \frac{48K}{ab^2} \right\} \sin \frac{m\pi}{l} V_{0,m}$$

$$- 2D_i H_{0,m} - \frac{24K}{a} \sin \frac{m\pi}{l} \Theta_{0,m}$$

$$= - Gat \left(\frac{m\pi}{l} \right)^2 \sin \frac{m\pi}{l} (\Delta_{0,m} - W_{0,m}) + 2 \sin \frac{m\pi}{l} (\Delta_{0,m} - H_{0,m}) \quad (20)$$

$$\frac{NabV}{2} (4 - D_i) \left(\frac{m\pi}{l} \right)^2 W_{0,m} + \left(\frac{24b^2}{ab^2} K_0 + 2N \right) \sin \frac{m\pi}{l} V_{0,m}$$

$$+ \delta^2 (4 - D_i) H_{0,m} - \frac{12b^2}{a} K_0 \sin \frac{m\pi}{l} \Theta_{0,m}$$

$$= \frac{NabV}{2} \left(\frac{m\pi}{l} \right)^2 \sin \frac{m\pi}{l} (\Delta_{0,m} - W_{0,m}) + \delta^2 \sin \frac{m\pi}{l} (\Delta_{0,m} - H_{0,m}) \quad (21)$$

$$\begin{aligned} & \frac{12K}{b} \sin \frac{m\pi}{l} W_{0,m} + \frac{12K}{a} V_{0,m} - \{ 2K(6 - D_i) + 6K_0 \} \Theta_{0,m} \\ & = (-) M_{0,m} + M_{0,m} - 3K_0 (1 - \frac{2K_0}{K}) \{ \Delta_{0,m} \\ & \times (\theta_{0,m} - \frac{2}{a} v_{0,m}) + (\theta_{0,m} - \frac{2}{a} v_{0,m}) \} \\ & + \frac{3K}{b} (4 - D_i) (\Delta_{0,m} - W_{0,m}) \end{aligned} \quad (22)$$

$$\therefore D_i = 2 \left(1 - a \sin \frac{m\pi}{l} \right),$$

$(19) \sim (22)$ 式を連立方程式として解き $W_{0,m}, V_{0,m}, \Theta_{0,m}, H_{0,m}$ が求められると、 $W_r, V_r, \theta_r, \Delta_r$ は次のように求められる。

$$W_r = \frac{4}{h \cdot l} \sum_{m=1}^{\infty} \sum_{i=0}^n W_{0,m} \sin \frac{m\pi}{l} x \sin \frac{i\pi}{n} V \quad (23)$$

$$V_r = \frac{4}{h \cdot l} \sum_{m=1}^{\infty} \sum_{i=0}^n V_{0,m} \sin \frac{m\pi}{l} x \sin \frac{i\pi}{n} V \quad (24)$$

$$\theta_r = \frac{4}{h \cdot l} \sum_{m=1}^{\infty} \sum_{i=0}^n \Theta_{0,m} \sin \frac{m\pi}{l} x \cos \frac{i\pi}{n} V \quad (25)$$

$$\Delta_r = \frac{4}{h \cdot l} \sum_{m=1}^{\infty} \sum_{i=0}^n H_{0,m} \sin \frac{m\pi}{l} x \sin \frac{i\pi}{n} V \quad (26)$$

また $(19) \sim (22)$ 式中の $W_{0,m}, V_{0,m}, \Theta_{0,m}, H_{0,m}$ は $(16), (17)$ の境界条件および $(19) \sim (22)$ 式で $i=0, n$ と Δ 式より求められる。

4. 数値計算例

$$l = 100 \text{ cm}, \quad a = b =$$

$$100 \text{ cm}, \quad t = t_0 = 0.5 \text{ cm}$$

$$x_0 = 0.25 \text{ mm},$$

$$E = 2.1 \times 10^6 \text{ Pa/cm}^2$$

$$\nu = 0.3 \quad 12 \times 10^{-3} \text{ で}$$

$$\text{集中荷重が } r = 0$$

$$\text{または } r = R \text{ にス}$$

$$\text{パン中間に作用}$$

$$1 \text{ ム場合の結果を Fig. 4, 5 に示す。}$$

5. 結論

このように問題に定和分変換を用いると、 $(4h)^2$ 元の連立方程式を、4元の連立方程式 $h-1$ 回の解法で変換出来るので、非常に有利である。

[参考文献]

- 1). 能町祐大: 周期的パラメータ等による分割された薄板問題の
箱形行進法の解法について。(日本機械学会論文集、第146号)等。
- 2). S. G. Nomadik: A NOTE on Finite Fourier Transform's
concerning Finite Integration. (Trans. Mem. MIT Cambridge)